

消防技術戦略会議（第 2 回）

1 日時：令和 7 年 7 月 1 日（火） 15 時 00 分～17 時 00 分

2 場所：全日通霞が関ビルディング 8 階 大会議室

3 出席者（敬称略○五十音順）

(1) 【構成員】

三宅座長、飯村構成員、板倉構成員（飯塚氏代理出席）、岡田構成員、加藤構成員、熊谷構成員、菅原構成員、寶構成員、田中構成員、徳田構成員（井上氏代理出席）、中西構成員、廣井構成員、細川構成員、柳沢構成員、山本構成員

(2) 【協力消防機関】

札幌市消防局 上山救急担当部長

川崎市消防局 小金澤予防部長

千葉市消防局 田村予防部長

さいたま市消防局 宮崎警防部長

北九州市消防局 山本警防部長

4 議事

(1) 消防分野におけるニーズの整理について

(2) 各分野における研究内容・取組等について

5 議事概要

議事(1)については事務局から、議事(2)については構成員及び連携消防機関から説明し、その後、意見交換を実施した。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【消防分野におけるニーズの整理について】

- 小規模な消防本部では、消火隊や救急隊の職員が予防業務を兼務している場合が多く、専門性の確保が難しい。そのため、予防業務については、AI による法令チェックやチャット相談機能の導入が望まれる。
- 資料 1－1 の P2「技術的観点からのニーズの整理（案）」に、「リチウムイオン電池・水素・アンモニア等の新たな災害への備え」や「女性・高齢職員の負担軽減に向けた資機材開発」を追加してはどうか。
- 現在の分類では整理できない技術もあるため、分類を柔軟化し、「その他技術」を追加してはどうか。

【各分野における研究内容・取組等について】

- ニーズとシーズのマッチングがうまくいけば、技術検証にあたって企業等が消防機関に協力を依頼するなど、良い循環が生まれるのではないかな。
- 先進技術と現場を連携させる役割を担う研究者を中長期的に養成していくことも重要ではないかな。
- 消防の領域では、技術導入にあたって、技術を実際に使う人々にどう動いてもらうかが非常に重要な要素。
- 予防に関する技術も、技術領域の一つとして検討していくことが重要ではないかな。
- 技術を使う人の行動変容、さらには社会的な受容性についても十分に考慮する必要がある。
- 新技術の社会実装には、技術開発だけでなく、現場や法体系との適合も重要。特に新しい技術システムは、現行法で容認されない可能性も生じ得るため、検証・実証を通じて法的な位置づけを確認する必要がある。必要に応じて、法規制の見直しも含めた中長期的な検討が求められるのではないかな。

(以上)